

紙でつなぐ、
未来をつくる



第150期 中間株主通信

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

CONTENTS

P1 トップメッセージ	P3 連結決算ハイライト	P4 セグメント別の状況
P5 トピックス	P10 KPPグループ 2023年のあしあと	



代表取締役会長
兼 CEO
田辺 円

代表取締役社長
栗原 正

紙の可能性を追求し、
社会への貢献を使命としたパーパス経営を実現してまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り心より御礼申し上げます。さて、2023年度中間期における国内経済は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行するなど、社会経済活動の正常化が進み、緩やかに回復しました。他方、原燃料価格の高騰や円安によるコストプッシュ型インフレに加え、深刻な人手不足が新たな課題となっています。世界経済、特に欧州においては金融引き締めや高インフレにより景気後退局面に入り、中国もゼロコロナ政策の後遺症で経済の停滞が続いています。

このような状況下、国内においては、グラフィック用紙の需要減が続き、数量は前年を下回りましたが、価格修正によって紙分野は増収となりました。板紙分野では、飲料用段ボール原紙は堅調に推移したものの、輸出の減少や消費者の買い控えに加えて、コロナ後の人流回復によりEC関連などの巣ごもり需要が減少したため、段ボール原紙の販売数量は前年を下回りました。紙器用板紙は、インバウンド需要の回復は限定的であったものの、トレーディングカードなどの高級板紙が堅調に推移し、販売数量・売上高

は前年を上回りました。製紙原料分野では、古紙は、紙・板紙の国内需要低迷により発生量の減少が継続したことから、販売数量は前年を下回り、市況価格の下落により売上高は前年を下回りました。市販パルプは、市況下落により減益となりました。

中国においては、国内外の紙・板紙の実需が乏しい一方で、生産設備の増強が進み、紙・板紙ともに市況の回復は依然として見込めず、販売数量・売上高は前年を下回りました。

欧州では、前述の経済環境から市況は軟化しており、紙卸売事業は製品価格の下落と在庫圧縮による需要の減退から売上高・利益ともに低調に推移しました。パッケージ事業においては、自動車産業やEコマースの需要が伸び悩み、前年比横ばいとなりました。一方、ビジュアルコミュニケーション事業は、各種イベントやエキシビションが活発に開催され、堅調に推移しました。

南米は、アジアからの製品の流入による価格下落がみられましたが、概ね横ばいで推移しました。

オセアニアは、商業印刷を中心にマーケットシェアを拡大し、売上高・利益ともに業績が大きく向上しました。パッケージ事業も特に豪州で好調を維持しており、また、ビジュアルコミュニケーション事業も堅調に推移しました。

ASEAN地域では、経済停滞による需要低迷に加え、中国からの安値攻勢による価格競争が激化し、紙卸売事業の業

績が低迷する一方、シンガポールのビジュアルコミュニケーション分野におけるM&Aが、業績に貢献しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高3,206億81百万円(前年同期比0.0%減)となりました。営業利益は71億33百万円(前年同期比42.3%減)、経常利益は60億12百万円(前年同期比46.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は47億10百万円(前年同期比49.1%減)となりました。

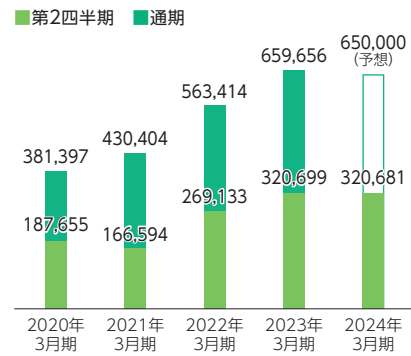
足元では、インフレや金融引き締めなどにより世界経済はリセッションに向っており、また、地政学リスクの高まりから国際情勢も緊迫感が増しております。そのような状況下、当社グループはコストマネジメントの強化と継続的なM&Aによるポートフォリオ改革、脱炭素社会に向けたグリーンビジネスに取り組むなど、2025年3月期を最終年度とする第3次中期経営計画を着実に遂行してまいります。また、次の第4次中計が始まる2026年3月期より、新経営ビジョン「GIFT2030」の下で新たな挑戦がスタートしますが、「DX」、「GX」、「スタートアップ」をキーワードとしたESG経営によってサステナブルな社会に貢献してまいります。

連結決算ハイライト

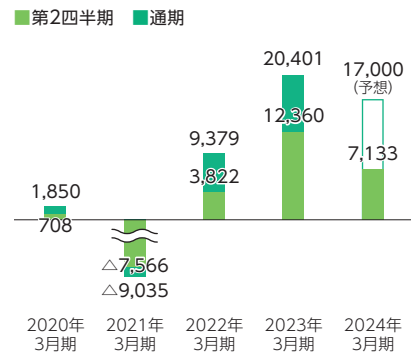
2024年3月期第2四半期のポイント

- Point 1** 国内・海外ともに経済活動制限が解除され、人流は回復基調にあるものの個人消費の低迷と過剰在庫を抱え、数量の回復は限定的であった。
- Point 2** 国内拠点紙卸売事業においては、グラフィック用紙・パッケージング用紙ともに物価高騰により消費者の購買意欲も低下し需要回復は限定的であった。売上高は販売価格の修正により増加。
- Point 3** 海外拠点紙パルプ事業においては、オセアニアはマーケットシェアの拡大により業績は大きく向上したが、中国は市況の低迷が長期化しており紙・板紙の需要は減速。

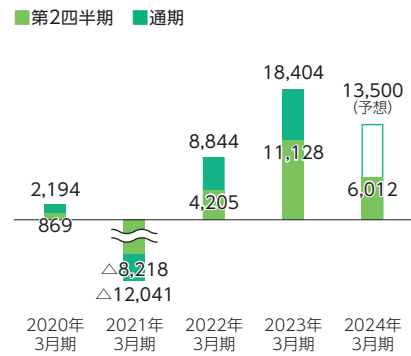
売上高 (百万円)



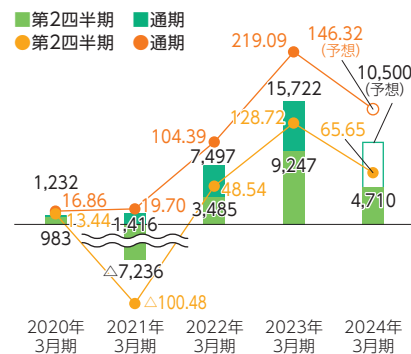
営業利益 (百万円)



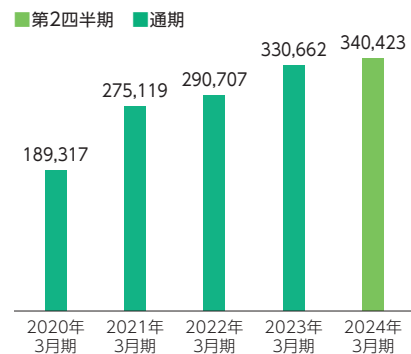
経常利益 (百万円)



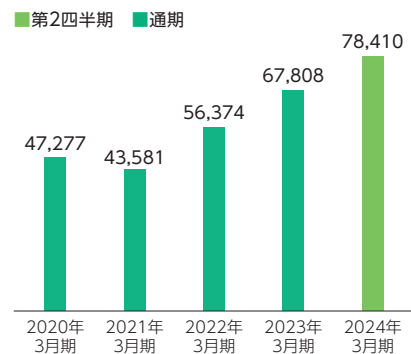
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 / 1株当たり四半期(当期)純利益 (円)



総資産 (百万円)

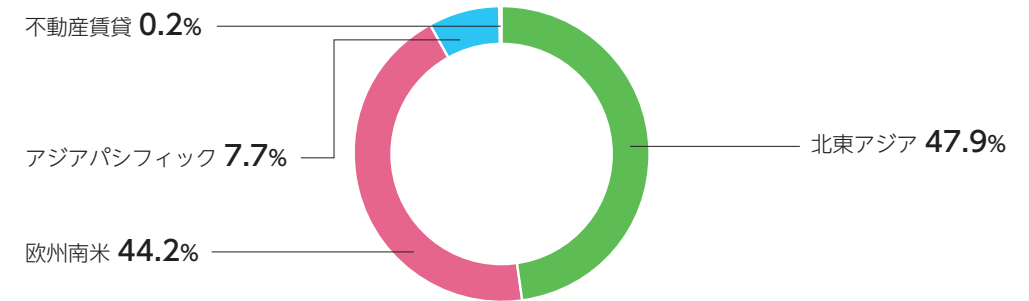


純資産 (百万円)



セグメント別の状況

2024年3月期第2四半期 セグメント別売上高構成比



北東アジア

売上高 **1,535億71百万円** (前年同期比 3.9%増)
 セグメント利益 **20億22百万円** (前年同期比 30.0%減)

国内では、紙分野及び板紙分野において数量は前年を下回ったものの、価格修正により増収となりました。製紙原料分野では、古紙は発生量の減少により数量・売上高ともに前年を下回り、市販パルプは市況下落により減益となりました。中国では紙・板紙の実需が低迷し、市況低迷の長期化もあり、数量・売上高ともに前年を下回りました。

アジアパシフィック

売上高 **245億82百万円** (前年同期比 6.6%増)
 セグメント利益 **8億20百万円** (前年同期比 20.2%減)

オセアニアは、商業印刷を中心にシェアを拡大し、売上高・利益ともに大きく向上しました。パッケージ事業も特に豪州で好調を維持し、ビジュアルコミュニケーション事業も堅調に推移しました。

ASEAN地域では、需要低迷や価格競争の激化で紙卸売事業が低迷する一方、ビジュアルコミュニケーション分野でのM&Aが業績に貢献しました。

欧州/南米

売上高 **1,417億68百万円** (前年同期比 5.0%減)
 セグメント利益 **44億1百万円** (前年同期比 52.2%減)

欧州では、紙卸売事業は製品価格の下落と需要の減退から低調に推移しました。パッケージ事業は需要が伸び悩み、前年比横ばいとなりました。ビジュアルコミュニケーション事業は、各種イベント等が活発に開催され、堅調に推移しました。

南米は、アジアからの製品の流入による価格下落がみられましたが、概ね横ばいで推移しました。

不動産賃貸

売上高 **7億59百万円** (前年同期比 28.1%増)
 セグメント利益 **2億93百万円** (前年同期比 405.4%増)

不動産賃貸事業は、KPP八重洲ビルのテナント入れ替えによる空室期間が発生しているものの、2023年2月に竣工したKPP明石町ビルが寄与し、前年比で増収・増益となりました。

▶ KPPグループホールディングス

アファンの森における生物多様性研修

当社は、サステナビリティマネジメントを進める中で、生物多様性の保全を重要な課題と捉えて様々な取り組みを進めており、2015年からは「一般社団法人C.W.ニコル・アファンの森財団」のオフィシャルスポンサーとしてその活動全般を支援しています。2022年2月より新たにアファンの森の南エリアを100年かけて生物多様性豊かな森に生まれ変わらせる森林創生活動の支援を開始しました。

当社の事業活動が自然の恵みに支えられていることを認識し、森林資源の保全と活用、そして環境問題解決に向けた意識改革と行動喚起を促すとともに、これから先の100年に向けて、豊かな森を創り、当社事業の継続と発展に資する人材を育成するために、2023年5月からアファンの森における「生物多様性研修」を開始しました。参加者は30数年かけて生物多様性あふれる森に生まれ変わったアファンの森を散策し、高木から低木まで様々な植物が生育している森の中で、くるみの食痕からネズミなどの小動物が生息していることを確認した後、南エリアにおいて整備作業を体験しました。荒廃した森は適切に間伐することによって日光が差し込み、健全な森へと生まれ変わっていきます。参加者たちは生育状態の良い木々を選定するノウハウを教わりながら、のこぎりや鋏を使ってそれらの木々を伐採し、鬱蒼としていた森に日が入るよう手入れを行いました。



仙台七夕飾りの展示イベントを開催しました

当社グループ会社の鳴海屋紙商事は、創業当時から紙の卸売業を通じて仙台七夕飾りの制作に携わっており、地元の伝統文化を継承する役割を担っています。当社は、仙台七夕の魅力を伝えるとともに、紙の持つ多様な魅力と表現の可能性をアピールする展示イベントを、都内2カ所で開催しました。

- ミュージアムタワー京橋(6月16日～7月14日)
- 銀座松竹スクエア(7月22日～8月6日)

展示では、「竹」や「紙」という古来より使われている素材の良さを見直すきっかけを提供するとともに、当社の循環型ビジネスモデルを紹介するコーナーを設置。放置竹林や環境問題、リサイクルなどの社会課題解決へ向けた取り組みを紹介しました。王子ファイバーが手掛ける紙糸「OJO+」からつくられた人工芝やアパレル製品のほか、竹やサトウキビなどの植物残渣を原料とするプラスチック素材「modo-cell®(モドセル)」の食器などを展示し、ご来場の方々に実際に触れていただきました。

また、地域の子どもたちへ向けた学習の一環として、中央区立京橋築地小学校と京橋朝海幼稚園に笹飾りと竹紙製の短冊、仙台七夕の七つ飾りの由来を紹介するパネルを提供しました。高学年の児童には東北復興を祈願する短冊を作成してもらい、東日本大震災を知り学ぶための施設「せんだい3.11メモリアル交流館」(宮城県仙台市)にも展示していただきました。仙台七夕飾りを通して、仙台と東京の子どもの間に新たな交流が生まれました。



本社にて和紙原料の楮と三椏を栽培

紙は中国から日本に伝わり、その後、日本独自の素材や製法で和紙へと進化しました。和紙は強度や耐久性、柔軟性に優れ、提灯、障子、傘のほか紙布(しふ)として着物にも使われます。また、保存性も高く、奈良の正倉院には約1300年前に作られた和紙が残っているほどです。和紙問屋の歴史は古く、近代製紙会社よりもはるか昔に成立し、私たちの暮らしを支え、文化を育んできました。

当社の源流の一つをたどると江戸時代の和紙問屋に行きつきます。このような背景もあり、当社は宮城県東松島市立宮野森小学校において毎年紙漉き授業を開催するなど様々な取り組みを行っています。このたび、創立100周年事業の一環として、本社敷地内で和紙の原料となる楮と三椏の栽培を開始しました。様々なものに形を変えることができる和紙。当社の100周年事業では、中央区産の原料から和紙を漉き、ランタンを制作して展示するプロジェクトを進めています。



▶ 国際紙パルプ商事

パルプ100%の紙製フェイスカバーを開発

国際紙パルプ商事は、このたび、パルプ100%のフェイスカバーを開発しました。当製品は、従来の石油由来の不織布製フェイスカバーがもつ通気性と半透過性を実現するため、顔をおおう面には、一般的なコピー用紙の4分の1以下の薄さの紙を使用するなど、紙素材に精通する当社の知見を活かして、フェイスカバーに求められる通気性と薄さ、強度とのバランスを追求し、1年半の期間をかけて開発しました。パルプ100%であるため、使用済みフェイスカバーは再生可能な紙ごみとして廃棄することができます。

2022年4月に施行されたプラスチック新法により、国内事業者が使い捨てプラスチックの削減を求められる中、当社は上記のフェイスカバーのほか、紙製ハンガーなどのアパレル副資材でアパレル企業の環境負荷低減に向けた取り組みを後押しします。



▶ 国際紙パルプ商事

クローズドリサイクルで企業のESG経営に貢献

自社商品に使用した製品を自社回収し、最後まで責任を持ってリサイクルを推進する企業が増える中、当社は古紙を原紙へと戻し、お客様に再利用していただく「ecomooクローズドリサイクルサービス」を提供しています。

紙だけでなく様々な素材についての知見とノウハウを有する当社は、このたび梱包フィルムのクローズドリサイクルの仕組みを構築し、株式会社JALメンテナンスサービス様に導入していただきました。JALグループではESG戦略を経営の柱の一つとし、環境保全への取り組みを進めています。資源を有効利用する枠組みとして、使用済み梱包フィルムを回収して再資源化するクローズドリサイクルを取り入れていただき、CO₂排出量削減の一環として活用していただいています。



OJO+の人工芝がスポーツ施設に採用されました

当社グループ会社の王子ファイバーが製造・販売する「かみのいとOJO+」100%の人工芝が、このたび、練馬区立中村南スポーツ交流センター内プレイルームのフロアマットに導入されました。OJO+は、強度に優れたマニラ麻を原料に抄いた紙を細くスリットし、撚りをかけて糸にしたものです。空気を多く含む多孔質のため、驚くほど軽く、吸水性・速乾性も兼ね備えており、さらっとした爽やかな肌触りです。焼却しても有害物質がほとんど発生せず、微生物の働きによって自然環境下で生分解される環境にやさしい素材です。既存の人工芝は石油由来のプラスチックから製造されており、一般社団法人ピリカが2020年度に行った調査結果では、日本国内水域の流出マイクロプラスチックのおよそ20%(個数比)が人工芝で、中には、50%を超える河川も複数存在したことが報告されています。人工芝が紙糸製に置き換われれば、環境負荷を抑えることが期待できます。環境問題に対する意識の高まりを追い風に、採用事例を増やそう積極的に取り組んでまいります。



展示会への出展

国際紙パルプ商事は、今秋3つの展示会に出展しました。各種展示会によるオフラインと、ソリューション提案型ウェブサイト「SHIFT ON(シフトオン)」を活用したオンラインの両面からマーケティング施策を実行し、新たな市場開拓と事業成長を加速させていきます。

国際物流総合展2023 第3回INNOVATION EXPO (2023年9月13日~15日)

「パッケージソリューション」を中心に、EC事業や3PL事業(サード・パーティー・ロジスティクス)を営むお客様向けに多種多様な製品及びサービスを紹介します。ランパック社による、オンデマンドで緩衝材を高速生成するデモンストレーションも実施しました。



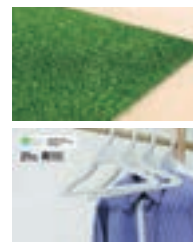
FOOD展2023 第19回フードシステムソリューション (2023年9月20日~22日)

株式会社アミカテラが製造販売する植物性かつ生分解性のプラスチック代替素材「modocell®(モドセル)」製の食器や、株式会社ネクアスが製造販売する海洋生分解性樹脂「NEQAS OCEAN(ネクアスオーシャン)®」で成形された透明性の高い環境対応製品のほか、バージンパルプ100%を使用したパルプモールド容器や紙フードパックなどの衛生的かつ紙ごみとして廃棄できる環境にやさしいパッケージなど、お客様のニーズや使用環境に合わせた商材やソリューションを紹介しました。

※ネクアスオーシャンは、酢酸セルロースをベースとした、透明性の高い、耐久性に優れた人と環境に優しい素材です。土壌分解に加えて海洋生分解性を有するなどの特徴があります。

第14回FaW TOKYO (ファッションワールド東京)秋 (2023年10月10日~12日)

「かみのいとOJO+」のアパレル製品や生地見本、染色バリエーション、原料のマニラ麻の繊維などを展示し、当社ブースの床面には、OJO+から作られた人工芝を設置しました。



また、アパレル業界全体の環境意識の高まりに応える、100%紙製フェイスカバーのほか、再生紙から作られた紙製ハンガーや紙製小物用フック、商品梱包用の紙製内袋などを紹介しました。

▶ アンタリス

Lovepac Inc.の株式取得

アンタリスは、2023年8月、パッケージ製品の加工・販売等を行うLovepac Inc.(所在地:カナダ・モントリオール 以下「Lovepac」)の全株式を取得し、子会社化しました。Lovepacはカナダとメキシコに拠点を置くBespoke(ビスポーク)※タイプのパッケージ製品を製造・加工・販売する会社で、特に工業用パッケージ製品の設計・製造に優れ、20年以上にわたり、航空機関連部品、薬品、医療品、食品、ハイテク製品などの分野で独自の専門技術を開発してきました。パッケージに関するコンバーター機能を完全に内製化しており、顧客のニーズに応じてパッケージ製品のデザイン、プロトタイプ製作、製品の製造販売をしています。アンタリスは欧州・南米でパッケージ事業を展開しており、Lovepacの技術やノウハウ共有によるシナジー創出が期待できます。アンタリスにとっては初の北米進出となりますが、今後の北米展開においても、Lovepacとのシナジーが中長期的に期待できることから、このたびの株式取得に至りました。

※顧客と話し合いながら要望を満たす製品をつくり上げること

▶ スパイサーズ

GHG排出量削減に向けた取り組み

2022年10月、スパイサーズはオーストラリアにおけるカーボン・ニュートラルの実現を目指して、環境NPO「Greenfleet」と協定を締結しました。太陽光発電、ガスフォークリフト、LED照明、ハイブリッド車導入などの取り組みに続き、現在はGHG排出量を相殺するために、オーストラリアの森林再生に取り組んでいます。2023年8月にシドニーで開催された植樹会にスパイサーズ社員が参加し、約1,300本を植樹しました。スパイサーズは健全な地球環境を次世代に引き継ぐために、今後も環境保全活動に積極的に取り組みます。



「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄に選定されました

当社は、株式会社JPX総研及び株式会社日本経済新聞社が共同で算出する「JPX中小型株指数」の2023年度（2023年8月31日～2024年8月29日）「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄として、新たに選定されました。

「JPX日経中小型株指数」は、「投資者にとって投資魅力の高い会社」を構成銘柄とするJPX日経インデックス400で導入したコンセプトを中小型株に適用することで、資本の効率的活用や投資者を意識した経営を行っている企業を選定するとともに、こうした意識をより広範な企業に普及・促進を図ることを目指すものです。併せて、こうした企業への投資者の投資ニーズに応えることを企図しています。また、銘柄選定に際しては、銘柄ごとの市場流動性も考慮することで、新指数に連動した資産運用を可能とするための実務的要請に応えることも目指します。

来年創立100周年を迎える当社は、現在では世界43か国・134都市に拠点をもち、海外売上比率も61%（2023年3月期）に拡大しています。ESG経営を軸に循環型社会の実現に貢献し、今後も株主の皆様のご期待に応えられるよう、努力を重ねてまいります。

KPPグループ 2023年のあしあと

2023年の主なトピックをご紹介します。

1月

- 経済産業省「GXリーグ基本構想」に賛同

2月

- スパイサーズがDomain Paper (Australia) Pty Ltd(所在地:オーストラリア・メルボルン)の粘着ラベル、印刷及びパッケージ用紙、ビジュアルコミュニケーションの消耗部品等の卸売事業を譲受
- 「生物多様性のための30by30アライアンス」に参画

3月

- 国内無担保普通社債発行
- 「Green Products & Solutions」サンプルキット配布開始
- BMエコモ社が完全NON-FIT型木材・製造業生産副産物ハイブリッド燃料による脱炭素電源開発事業に参画

4月

- アンタリスがEmbalajes Gosuma S.L.(所在地:スペイン・ブルゴス)の産業用パッケージ販売事業を譲受
- アンタリスが、ビジュアルコミュニケーション事業を展開するIntegart Sp.zo.o.(所在地:ポーランド・ミエンキヤ)、Smart LFP IBMT Sp.zo.o.Sp.k.(所在地:ポーランド・カトヴィツェ)及び Smart LFP Sp.zo.o.(所在地:ポーランド・カトヴィツェ)の全株式を取得し、子会社化

5月

- プライム市場上場維持基準適合
- BMエコモ社がインライン型近赤外水分計のデータ活用ソリューションの提供を開始

6月

- RANPAKセミナーを開催
- ミュージアムタワー京橋にて七夕飾りを展示

7月

- 銀座松竹スクエアにて仙台七夕飾りを展示

8月

- 紙糸100%の人工芝が練馬区立中村南スポーツ交流センター内プレイルームに採用

9月

- 「GIFT2030」プロジェクト キックオフ
- 国際物流総合展2023第3回INNOVATION EXPOとFOOD展2023第19回フードシステムソリューションに出展
- 「JPX日経中小型株指数」の構成銘柄に選定

10月

- 第14回FaW TOKYO(ファッションワールド東京)秋に出展
- ISCC PLUS認証取得プロジェクト キックオフ
- 人権デューデリジェンスプロジェクト キックオフ

記載の日付は、コーポレートサイトにおけるリリースまたはトピックス掲載日です。

» より詳細な情報は当社コーポレートサイトをご覧ください。

コーポレート
サイト



企業情報、事業内容、IR情報などをタイムリーに発信しているWebサイトです。

IR情報



財務・業績情報及び統合報告書や決算説明会資料など、各種IR資料を公開しています。

サステナ
ビリティ



当社のサステナビリティに対する考え方やマネジメント体制、環境や社会への取り組みを掲載しています。

GREEN KPP



国際紙パルプ商社の持続可能な社会づくりに向けた様々な取り組みを紹介しています。

中間配当実施のお知らせ

2023年11月14日開催の取締役会におきまして、中間配当(第2四半期末配当)につき、1株当たり11円とすることを決議いたしました。期末配当につきましても、1株当たり11円を計画しており、これにより年間配当は、1株当たり22円となる見通しです。

なお、中間配当金のお支払開始日は、2023年12月4日とさせていただきます。

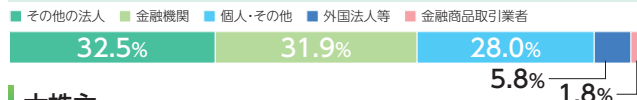
株式の状況・会社概要

株式の状況

(2023年9月30日現在)

発行可能株式総数	267,500,000株
発行済株式の総数	73,244,408株 (自己株式124株含む)
株主数	10,604名

所有者別の株式保有比率



大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
王子ホールディングス株式会社	12,736	17.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,774	7.8
日本製紙株式会社	5,270	7.1
KPPグループホールディングス従業員持株会	2,313	3.1
株式会社日本カストディ銀行(りそな銀行再信託分・北越コーポレーション株式会社退職給付信託口)	2,300	3.1
株式会社みずほ銀行	1,857	2.5
三井住友海上火災保険株式会社	1,829	2.4
株式会社三菱UFJ銀行	1,705	2.3
株式会社三井住友銀行	1,705	2.3
農林中央金庫	1,705	2.3

(注)持株比率の計算は、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する株式(1,432,331株)を含めて計算しております。なお、当該株式は、連結計算書類及び計算書類においては自己株式として処理しております。

会社の概況

(2023年3月31日現在)

商号	KPPグループホールディングス株式会社
設立	1924年(大正13年)11月27日
本社	東京都中央区明石町6番24号
資本金	47億2,353万円
従業員数	5,457名(連結) 52名(単体)
主な事業内容	子会社等の株式又は持分を所有することによる子会社の事業活動の支配・管理並びに不動産の保有、賃貸等
連結子会社	94社
関連会社	8社

取締役及び監査等委員

(2023年9月30日現在)

代表取締役会長 兼 CEO	田辺 円
代表取締役社長	栗原 正
取締役 副社長	坂田 保之
専務取締役	生田 誠
取締役(社外)	矢野 達司
取締役(社外)	伊藤 三奈
取締役 監査等委員	富田 雄象
取締役 監査等委員(社外)	片岡 詳子
取締役 監査等委員(社外)	近江 恵吾

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日、期末配当 毎年3月31日、中間配当 毎年9月30日 その他必要がある場合は、予め公告する一定の日
公告の方法	電子公告 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載する。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先(郵便物送付先電話番号先)	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
単元株式数	100株
証券コード	9274
上場取引所	東京証券取引所プライム市場



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号 TEL. 03-3542-4166
<https://www.kpp-gr.com/>